
絶対にまけないよ？

落ちぶれた天使

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

絶対にまけないよ？

【Nコード】

N8986Y

【作者名】

落ちぶれた天使

【あらすじ】

うまくいくはずだったのに。

綾瀬さん。

新一を、新一をかえして!？

綾瀬あやめ(前書き)

ハロー~~~~~

~~~~~

## 綾瀬あやめ

蘭「今日ね、転入生がくるらしいわよ」

園子「まじ？どんな子かな？やっぱ性格よね」

蘭「うん。すっごくかわいい子っていったよ」

園子「あちゃーこりゃ男子がさわぐね」

蘭「そうかもね！もちろん新一は誘惑されたりしないよね・・・？」

新一「なんでそんなときくんだ？てか興味ねえ」

園子「よかったわね」

蘭「べ、別に私は！」

そのとき…ドアがあいて、教師と茶色の髪をフワ」っとさせたかわいらしい顔の少女がはいってきた。

教師「おい座れー転入生だ」

あやめ「おはようございまーすう綾瀬あやめです」

その少女はいかにもかわいらしくいった。

そう、世にゆうぶりっこだ。

新一（寝ている）をのぞいた男子生徒は完全にその少女にみとれ、女子はいかりくるっていた。

教師「席は工藤のとなりだ。あれあれ、寝てるやつ。ついでにおこしてやれ。」

あやめ「おーい工藤さん？おきて〜♪」

新一「ん？あんただれ？」

新一はあやめに興味をしめさなかった。

あやめ「転校してきた、綾瀬あやめだよ？よろしくね♪く・ど・うくん？」

新一「あっそ。」

そういうと新一はまたねむりの世界についた。

教師「こら工藤ねるな！」

そのころあやめは新一に一目ぼれしていた。

あやめ「（まじちようかつこいい♪高校生探偵の工藤新一じゃん！でもたしか工藤くんには両思いの幼馴染がいるとか。確か名前は毛利蘭。ふん。ゆるせないんだから〜あやめがおしおきしなきゃ〜）」

〜放課後〜

あやめ「ねえ新一〜いっしょにかえろ〜よ〜♪あやめ、新一とか

えりたいゝい」

新一「べたべたすんなかったりい誰かべつのやつとかえれよ。俺はオメーとぜってーかえりたくねえ」

あやめ「ひどおーい新一ゝあやめさびしいゝ」

新一「わりいけど俺、オメーみてえなぶりっ子きれえだから。それと新一ってよぶな。これは幼馴染の蘭の特権。じゃな。蘭かえろーぜ。」

蘭「あ、うゝん！ちよつとまってるねゝ」

新一「おう！」

あやめ「（毛利、蘭・・・ちよーううざい！）」

**綾瀬あやめ（後書き）**

あいむ落ちぶれた天使ちゃん

笑いなさい・・・？  
(前書き)

ああああああああああああああああああああ



笑いなさい・・・？

あやめ「おはよ！もおりさあ〜ん」

蘭「あ、おはよう？綾瀬さん。」

あやめ「ねえねえ、もーりさんってくどーくんの彼女？」

蘭「あ、ううん。わ、私達はただの幼馴染よ！！！」

あやめ「ふーん。じゃああやめの恋応援してくれるよね？」

蘭「え？」

あやめ「あやめ、くどーくんのことが好きなの！もーりさんたち、ただの幼馴染なんでしょ？ならいいじゃない？」

蘭「え・・・」

あやめ「だめなの？ただの幼馴染なのに。あやめ、かなしい・・・」

蘭「・・・わ、分かった・・・」

あやめ「ありがと〜じゃあさ、まずくどーくんとなれなれしくはなさないで？いいよね？あたしたち友達だし？」

蘭「・・・うん・・・」

あやめ「じゃあくどーくんちにもこないでね！じゃあね〜！」

あやめはそういうとそそくさとはしっていった。

蘭「どうしよう・・・私、私、新一とはなせないなんて・・・やっともどつてきてくれたのに・・・コナン君も新一になっちゃって、新一もいなくなっちゃうなんて・・・私、なんでOKしちゃったんだろう・・・うえっうえっ」

蘭はそのまま学校へとぼとぼあるいていった。

ー博士のうちー

新一「おーい博士、はいるぞー」

歩美「あ、コ、新一お兄さん・・・」

光彦「コナン君に、会いたいですね・・・」

げんた「おう・・・」

歩美「また、いっしょにサッカーしたいよ・・・」

歩美は目に涙をためた。

哀「おはよう。工藤くん？」

新一「おう、ってなんでおめえらここにいんだ？今日学校だろ？」

哀「学級閉鎖よ。それで。で、あなたはどのようにしてここにきたの？」

新一「蘭がいつまでたってもこなくてよ。かわりにクラスに転校してきたやつがむりやりいすわってきて。で、学校いくまでここにしようとおもってよ。てかなんで歩美ないてんだ？」

哀「あなた、かなり鈍感ね。それと、あなたにもってきたいものを地下室からとってくるから、ソファァでコーヒーでものんでなさい。」

新一「おう。」

そういうと新一はすわってコーヒーをのんでいた。

歩美達はまだなきかけていた。

あいがおそろしいものをもって地下室からでてきた。

新一「は、灰原さーん・・・なにそれ・・・？」

哀「みてわからない？注射器よ？」

哀がもってきた注射器には薬がはいっていた。

歩美「あ、哀ちゃん・・・」

げんた「それどうすんだ・・・？」

光彦「灰原さん、怖いです・・・」

新一「おーい、何の薬ですか・・・？」

哀「いったはずよ？吉田さんをなかせたら許さないって。で、あなたは見事に吉田さんをなかせた。だから、罰として、あなたには私の薬の実験台になってもらうわ・・・うふふ・・・」

哀は小学生とはおもえない、不敵な笑みをうかべた。

新一はにげようとしたがなぜか体がうごかない。

新一「（なんでだ？うごけねえ！？）」

哀「あら、なんでうごけないんだとかおもってそうじゃない？悪いけど、あなたがあばれるとおもって、コーヒーに、痺れ薬いれといだから・・・フフフ・・・ほおら、そんな怖い顔しないで・・・？わらいなさい・・・？ふふふ・・・」

哀はそういうと新一のうでに注射ばりをさしこんだ。

笑いなさい・・・？  
(後書き)

ああああああああああああああああああああああ

## お金はよろしく

新一は<sup>マッドサイエンティスト</sup>見事灰原のおかげでコナンにもどった。

コナン「コナンにもどったあああああ！！！！！！」

歩美「うそお！？」

哀「いまの薬は体を元に戻す薬よ。48時間したらもどるから安心して？」

コナン「48時間かよ・・・学校明日いけねえし・・・」

歩美「やったア！コナン君とあそべるぅ♪」

げんた「じゃあ明日学校やすんでコナン家にとまろーぜ♪」

光彦「まあ1日くらい・・・ですよね！！」

哀「特別な日なんだしいんじゃない？だけど親に許可をとってからね？」

3人「「ほゝい♪」」

コナン「はぁ・・・」

哀「まあいいんじゃない？ 蘭さんや黒羽くんたちと服部さんたちもよんだら？ 家ひろいんだし。」

コナン「ま、たまには羽をのぼすか・・・」

哀「夕食のおかねはあなた負担ね。」

コナン「え!?!」

歩美「お母さん、あさって学校で補修うければいいって」

光彦「ぼくもです!」

げんた「おれもだぞ!!!」

光彦「あ、他のひとにはぼくから連絡しときました！」

コナン「金欠だ・・・」

げんた「けちけちすんなよコナン!!」

光彦「みんなでトロピカルランドいきませんか？」

歩美「わー!! いこいこ!!」

げんた「だな!! 全員そろったらいこーぜ!!」

光彦「お金はコナン君おねがいます! 他の人にもそうつたえておきました!!」

コナン「いらんことつたえんなよ・・・」

ぴんぽーんぴんぽーん

哀「きたみたいね。はいつていいわよ!」



がちや

服部「おう！ひさしぶりやなちっこい工藤！」

蘭「みんなでトロピカルランドいくんだよね。」

かずは「ひさしぶりやわあ。楽しみやね」

快と「青子はお子様券でいいな。」

青子「青子はお子様じゃなくいい！！！！」

青子・快と・平次・かずは・蘭「「「「「お金はよろしく」」」」」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8986y/>

---

絶対にまけないよ？

2011年12月17日19時45分発行